

小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・
第二期小平市障害児福祉計画検討委員会 第5回

日	時	令和3年1月20日（水）午後2時～午後4時
場	所	小平市役所大会議室
出	席	委員：19名（うち公募市民8人） 欠席2名 傍聴者：1人

【次第】

- 1 開会
- 2 配付資料の確認
- 3 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画（素案）に係る市民意見公募（パブリックコメント）及び市民懇談会等の結果報告について
 - （1）市民意見公募（パブリックコメント）
 - （2）市民懇談会・わかりやすい説明会
- 4 計画（素案）からの主な変更点について
- 5 今後の予定について
- 6 閉会

【配付資料】

- 1 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画検討委員会 第5回 会議次第
- 2 （資料1）小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画（案）策定のための検討資料
- 3 （資料2）小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画（素案）に係る市民意見公募（パブリックコメント）の結果について（案）
- 4 （資料3）小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画（素案）に係る市民懇談会等における主な意見について
- 5 （資料4）パブリックコメントの意見反映をした修正箇所など（主なもの）
- 6 （資料5）今後の予定について

議事

◆ 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画（素案）に係る市民意見公募（パブリックコメント）及び市民懇談会等の結果報告について

事務局より、資料２・３について説明

（委員）

５ページ目の７番の小平市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム連絡会について、委員を明らかにしてほしい。委員への報酬等のこともあるため、委員を明らかにする必要がある。

12ページ25番の国立研究所の研究者等の学者が地域の障がい者に差別・虐待をしても、申し立てる機関がないという意見があるが、検討結果の文言に入っていない。

（事務局）

小平市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム連絡会の委員の非公開について、連絡会の委員には報酬等を出していない。まだ始まったばかりであり、委員を公開するかについても検討している状況である。

素案の66ページの17番で虐待防止センター機能の充実とある。障がい者施設・養護者・雇用者に関する虐待については、障がい者支援課が窓口となっているが、一貫して大学に対する苦情的な内容であることから、内容で統一して、検討結果の文言とさせていただいた。

（委員）

25番については分かった。７番についてだが、委員の報酬がないということは分かったが、それと公開する、公開しないということは全くリンクしない話である。ぜひ公開する方向で検討いただきたい。

（事務局）

委員の氏名公開については、この連絡会で扱う内容が、特定の個人の情報を扱うこともある。中には、公開してしまうとその委員に対する攻撃のようなことも考えられるので、現在のところは非公開とさせていただいている。

(委員)

2つある。まず、パブリックコメントの意見応募者数が15名、件数が93件とあるが、いつも同様なバランスとなるのか。1人の方が非常にたくさんのコメントをされていると感じた。

次に、3件の反映内容について、教えていただきたい。

(事務局)

まず、パブリックコメントの件数について、この計画は、前回3年前の計画、それから6年前の計画と比較すると、3年前は約20件、6年前は約40件となっており、今回大変多くご意見を寄せていただいた。ご指摘いただいたように、1人の方から多くのご意見を頂いている。

それから、2点目の計画（案）に反映するものについて、わかりやすい説明会のところで1件反映するものがあるので、合計3件となっている。

(委員長)

資料3について、わかりやすい説明会の中で出た意見について確認したい。

(事務局)

資料3の2ページ目のその他のところに、わかりやすい説明会で出たご意見が入っている。地域自立支援協議会の委員は男性が多いことから、男女平等の観点から女性に対するフォローをというご意見がわかりやすい説明会で出たと記憶している。

(委員長)

わかりやすい説明会の意見が出たことについてもしっかりと分かるようにした方がよいと思う。

◆ 計画（素案）からの主な変更点について

事務局より、資料4について説明

(委員)

79ページの生活環境の整備の基本的な考え方ところで、2行目に「できる生活環境の整備を進めてきました」という表現があるが、過去形にしてしまったらもう何もしないようなイメージを与えてしまうため「進めていきます」とした方がよいと思う。

(事務局)

79ページの基本的な考え方のところで、「進めてきました」という表現だが、引き続き進めていくという意味で書いている。意図していることと齟齬が生じかねないというご指摘であれば、先ほどの表現と合わせる形で、変えるかどうかを改めて検討したい。

(委員長)

意図としては理解できたが、前向きに変更ということで進めていただきたい。

(委員)

計画(案)92ページの10番の農福連携について、具体的にどのようなイメージを計画でお持ちなのか、教えていただきたい。

(事務局)

基本指針には入っており、過去に市の職員が毎年のように農林水産省と厚生労働省の合同の研修などに参加してきた経緯もある。今年度に産業振興課と連携して、農業課題などを伺ってきたが、福祉の分野で解決できそうなものがある。実際に既に事業所が動いているところもあった。そのため、計画に入れることで、また推進に力を入れていけるようになるのではないかと思う。また、パブリックコメントとしても頂いたので載せることになった。

具体例としては、規格外の農産物などを事業所がパンやクッキーの材料にしている。また、相続の時に、生産農地としておきながら、結局荒れ地になってしまうところを、福祉の手で草むしりをするという話が出ている。

(委員)

委員長に確認したい。今回、計画(案)を検討しているが、その意見ということでよろしいか。

(委員長)

そこも含めてまだ余地はあるので、ご意見を出していただいても結構だと思う。

(委員)

では、簡潔に4点ほど意見を申し上げる。まず、計画(案)の114ページについて、こちらに、児童発達支援センターにおける相談の流れ<イメージ>について表の出典の明記をしていただきたい。

2点目は、113ページの下に、児童発達支援センターの設置について説明について、切れ目ない支援を実現するためには、福祉・児童・教育など市の関連部署の協力が必要であるということを方向性として示していただければと思う。

3点目は、117ページ、障害福祉サービス等の質の向上について、最後に指導監査結果の関係市町村との共有という項目があるが、東京都の指導検査に合わせる方がよいのではないかと思う。ただ、この指導監査という言い方が妥当であればこれで結構である。

最後に、4点目、85ページの10番の巡回相談事業について、たいよう福祉センター、障害者福祉センターが関わった事業だと示していただきたい。

(事務局)

114ページのイメージ図について、出典の名称は明記させていただく。

113ページの児童発達支援センターの設置について説明については再考させていただく。

117ページ、障害福祉サービス等の質の向上について、指針等に使われている言葉であるため、指導監査結果を使った。

85ページの10番の巡回相談事業については、検討させていただきたい。

(委員)

保育所等訪問支援について、障がいのない児童の集団生活に障がい児が合わせることが一義的に書かれており、障がい児を育てている保護者に対する配慮が足りないのではないか。

(事務局)

保育所等訪問支援は、障がい児に対する支援を行っているサービスの一環で、こちらについては、児童発達支援や相談に来ていただいた保護者の要請によって、こういった事業をやることになっている。保護者の思いなどを聞きながら、保育所等を訪問して、支援をしていくという流れになっている。

(委員)

計画(案)の中の新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)に関する内容が、45ページの上の2行目に記載のみで第4章の災害等に記載がなく非常に少ないことから市の考え方を確認したい。

また、109ページに地域生活支援拠点について、最後に基幹相談支援センターも併せて検討すると書いてある。これでよろしいかどうか確認したい。

(事務局)

今の局面だと、例えば任意のPCR検査や、障がい者の家族の方が陽性になった場合に、障がい者が取り残されてしまう状況も想定されることから、それに対応するような受け入れ体制事業を行っている。それから、各事業所に、マスクや消毒液などの対応をしている。

計画（案）には間に合わなかったところもあるが、令和3年度予算が市でもこれから固まるため、今後コロナに関する内容を入れることも検討している。

109ページに地域生活支援拠点について、市としては基幹相談支援センターをやりたいという状況ではあったが、なかなか認めていただけなかった。今後も企画政策部等々と調整しながら進めていきたいと考えている。今後、地域生活支援拠点の整備については、自立支援協議会でも事業が早期にできるような対応を図っていく方向で、現在進めている。

(委員)

資料2の14ページの29番。③、⑧、⑭の3名の方から、68ページの小平市心身障害者福祉手当（以下「手当」という。）を支給されるようお願いしたいと書いてある。そして、68ページでは充実となっている。充実ということであれば、今ある手当を充実させるということなのか。それはそれで良いと思うが、具体的に何をどう充実させるのか。これまでも精神障がい者だけ手当から排除されてきたが、充実としたからには、市として何か将来的な意気込みを聞かせていただきたい。

(事務局)

いろいろな方が、精神障がい者への手当の支給を望まれているということは、市としても当然理解している。手当は、東京都のいわゆる上乗せ制度というところがあることから、近隣の自治体などの状況、23区の状況なども注視しながら進めてきている。

また、東京都としては、そもそも給付については国が行うべきものという方向で考えており市としては、そういった状況も勘案しながら今後進めていきたい。

計画の充実については、手当についての充実を図っていくという方向である。内容的に、今まで支給している方々への充実を図っていく。それから、今後精神障がい者の方への対応について、すぐに実現できるかどうかはなかなか難しいと思うが、市としてもこういった内容を真摯に受け止めて、事業が実施できるように尽力していきたいと考えている。

(委員)

150ページ、151ページの計画の進行管理について、このチェックは小平市地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）で行われるということによいか。この協議会のメンバーは、当然当事者、障がいを持った方やそういう団体も含まれているということによろしいか。

(事務局)

150ページ、151ページの計画の進行管理について、協議会で年に1度、計画の進捗状況のまとめを提示、報告し、評価していただく。それとともに、この計画でも成果目標や見込み量などがあるので、そこの進捗状況については協議会の中で常々行っている。

協議会は、委員が18人で、その中には当事者の方もおられる。今は身体障がい者の方、精神障がい者の方の各種別の方々に委員となっていていただいている。その他に小平市障害者団体連絡会から推薦していただいている方々や関係機関の方々、親の会の方々などにも委員となっていていただいている。成年後見の関係もあるので、社会福祉士の方に委員になっていただいている。

(委員)

十分理解した。

また、アンケート調査結果報告書が載っているが、障がいを持っている方の選挙に関するアンケートをしているか確認したい。

(事務局)

計画を立てるためのアンケートを令和元年度に実施しているが、こちらのアンケート調査で、選挙に関する質問については、行っていない。

(委員)

要望として、選挙に関する質問をぜひ入れていただければと思う。

(委員)

素案の108ページの地域生活支援拠点等の整備及び機能の充実について、この拠点を市全体として考えていくというが、協議会よりも市のほうできちんと音頭を取って動いていただきたい。

(事務局)

基本的には協議会の委員の方々にご意見を伺いながら拠点整備を進めていかないと、市の主導で全てをやるということは押し付けになってしまう。市としては、共に練り上げたものを整備するというスタンスで、今後ワーキングなどを行っていかこうと考えている。協議会の委員に全てをお任せしているとは考えていない。市としても、いろいろな意見を出しながら進めていきたい。

(委員)

言葉の問題かもしれないが、押し付けという形ではなく、市が主体としてやっていただきたいと思う。

◆ 今後の予定について

事務局より、資料5について説明

(委員長)

それでは、本日このパブリックコメント、それから素案についての検討をした。その中で、新たに事務局で確認をしていただき、文言の修正等が必要なところがあるのではないかというご意見も頂いている。そちらを確認することは難しいが、基本的には事務局より提案されたこの素案、それから今後の日程について、こちらの2つを皆さまにはご了承いただけるか。

<了承>

本日の第5回でこの検討委員会は終了となる。私も初めてこの委員会に参加させていただき、慣れないところを皆さまにご協力いただき、最後に御礼を申し上げたい。

(事務局)

今後コロナの状況もあるが、この計画(案)についてはさらにより良いものにして、冊子として完成させていきたい。

以上